

令和元(2019)年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	中東部族社会の起源：アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究
研究代表者	藤井 純夫 (金沢大学・名誉教授) ※令和元(2019)年7月末現在
研究期間	令和元(2019)年度～令和5(2023)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>本研究は、中東考古学の調査が都市遺跡に集中するなかで、応募者のアラビア半島の乾燥地帯での長期にわたる調査経験を基盤とした研究計画であり、先原史遊牧民の部族社会形成史に複合領域で迫る挑戦的な研究である。</p> <p>遺跡に残存する文化層は薄いですが、周辺環境への人為的影響を評価する環境変遷史研究をドイツ隊との連携で進める計画は合理的である。すべての遺跡で年代測定試料を得ることは困難だろうが、墓域の発掘調査とともに碑文研究や岩絵研究を組み合わせることによって遺跡間の編年関係を把握する手法は、隣接分野間との新たな連携として意義深い。これによって、アラビア半島の広域に遊牧民の活動が拡大し、部族社会が形成されてきた過程が明らかになると期待できる。</p>